

学校概要

創立 39 周年	学校長 小澤 紀子	副校長 宇田川 聡	学期 2 学期制	児童・生徒数 440 人
学級数 一般級: 15 個別支援級: 3		主な関係校: 南希望ヶ丘中学校		

学校教育目標

出会い ふれあい ひびきあい
 ○基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び続けようとする子を育てます。(知)
 ○人権教育を推進し、みんなが安心して豊かに生活をしようとする子を育てます。(徳)
 ○自らの健康や安全に関心をもち、健やかでたくましい体をつくろうとする子を育てます。(体)
 ○家庭・地域・学校が連携を深め、地域・社会に積極的にかかわろうとする子を育てます。(公)
 ○様々な人とのふれあいを通して、自らの考えや視野を広げようとする子を育てます。(開)

学校の特色

- 緑豊かな閑静な住宅地の中にある学校で、自治会などの組織がしっかりとしている。地域の方々は、登下校の見守りに115名もの登録者がおり、協力的であたたかく見守ってくれている。
- 縦割り班(スマイル班)活動を教育活動の柱のひとつとし、年間を通してさまざまな活動を異学年グループで行っている
- 学校運営協議会を設置し、地域・家庭・学校の連携を図り、協働教育をめざしている。
- 読書・緑化など保護者・地域のボランティア組織があり、子どもたちの豊かな体験・環境などを支えてくれている。
- 学力状況調査の結果をふまえ、基礎基本の一層の定着を図る必要がある。

学校経営中期取組目標

○地域・家庭・学校との連携をさらに深め、温かい雰囲気の中で子どもたちが生き生きと成長することができる学校を目指します。
 ・一人一人が自分の思いを表現できる授業をめざし、基礎基本の定着を図り、学力向上に取り組めます。
 ・多くの人々とのかかわりや体験を通して学び、主体的な活動を目指します。
 ・自他とのかかわりのなかで、自他のよさに気づき、互いに認め合う心を育てます。
 ・地域・家庭と連携を図り、協働教育を常に意識した信頼される学校づくりを目指します。
 ・体力向上を目指し、身体と心の健康について全校で取り組みます。

小中一貫教育の取組

南希望ヶ丘中学校 ブロック : 南希望丘中学校・善部小学校・希望ヶ丘小学校	
9年間で育てる子ども像	自分をとりまく人々と積極的にかかわりを持ち、その中で自ら成長する子ども
自校の具体的取組	○年間を通した縦割り班活動で、互いの違いやよさに気づき、自己有用感を高め、人への思いやりの心を育てる。 ○自分の考えや思いを表現し、互いに認め合い、学び合う授業づくりに努める。 ○地域やPTA行事に児童も教職員も進んで参加し、人とのかかわりの輪を広げていく。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	ねらいを明確にした授業を行い、基礎基本の定着に重点を置くとともに、主体的に問題解決に取り組める子を育てる。	①重点研のテーマを「進んで課題に取り組む、自分の考えを表現することができる子の育成」と設定し、算数科を中心に主体的に課題解決を行い、学び合える授業を目指す。②朝のスキルタイムを充実させ、基礎基本の定着に取り組む。③授業での子どもの様子や学習状況調査の結果を分析し、課題を共有し授業につなげるようにする。
豊かな心	よりよい人間関係を築いていく中で、自他のよさを認め、自尊感情を育て、自分も他人も大切にすることを育てる。	①年間を通してスマイル班活動の充実を図り、人とのかかわりの中で自他のよさに気づき互いに認め合い、思いやる心を育てる。②さまざまな行事・学習で体験活動を重視し、主体的に活動し、自分に自信がもてるような機会を大切に。③人権週間の取組などを充実させ、自分のよさを進んで出しながら、他者理解を深めていく。
健やかな体	身体と心の健康について話し合い全校で取り組む。また、縄跳びや遊びを通して体力向上を目指す。	①休み時間のリズム縄跳び、大縄跳び大会などで、継続的に体力向上に取り組む。②休み時間の外遊び、集団遊びの推奨などを通して、運動する楽しさを味わい、体力向上に関心をもてるようにする。③学校保健委員会で、身体と心の健康についてテーマをもって取り組む。
児童生徒指導	基本的な生活習慣を身に付け、規範意識を育て、子どもたちが安心して学校生活が送れるようにする。	①「善部小ルールブック」をもとに、よりよい生活習慣・学習態度を身に付けさせるよう、全職員で共有して子どもたちを指導する。②職員会議で「子どもの話」を全職員で共有し、チームで子どもたちの支援を行う。③いじめやトラブルなど、子どもの声をしっかりと受け止めて寄り添い、家庭との連携を大事にしながら解決するように努める。
特別支援教育	一人ひとり個に応じた支援を探り、必要な関係機関と連携をとりながら、安心して生活が送れるようにする。	①一人ひとりのニーズに沿った個別の教育支援計画や指導計画を作成・活用する。②学校カウンセラーや特別支援教育総合センターなど関係機関と連携をとり、一人ひとりにあった支援が行えるようにする。③特別支援に関する研修・ケース会議・コンサルテーションを行い、子どもたちが安心して生活・学習ができる支援についての理解を深める。
協働教育	地域・家庭・学校の連携を深め、共に見守り、共に育てる環境の中で、子どもたちが安心・安全な学校生活・豊かな体験ができる学校づくりに努める。	①学校協働運営協議会で本校教育活動についての理解を深めていただけるよう、授業参観・行事参観などの機会を設ける②児童の様子から、学校評価をいただき、成果・課題を今後の教育活動に生かしていく。③保護者・地域のサポートを生かした授業・保護者ボランティアによる豊かな体験・環境を大切に。④夏休み学習教室の運営に協力する。
いじめへの対応	だれもが安心して豊かに生活できる学校づくりに努める。	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム・YPアセスメント」を研修・活用する②全職員で児童理解の情報共有・アンケートの実施を行い、いじめの早期発見・早期対応を心掛ける。③道徳教育・人権教育・縦割り班活動などを通して、自他のよさに気づき互いに認め合い、思いやる心を育てる。④家庭との連絡を密にし、保護者との連携を大切に。④

人材育成・組織運営	研究・研修に努め、授業力向上をめざすとともに、全職員が学校経営に参画しているという意識をもって運営に携わっていく。	①5年次以下の教職員を対象にした「スマイル塾」を組織し、ミドルリーダーが中心になって自主的な研修を行う。②校内重点研究会・区市研究会に積極的に参加し、授業力向上に努める。③主幹教諭をリーダーとした3委員会で全職員が役割を担い、学校運営に携わっていく。
担当	教務部	